

なかま

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.12号

平成25年 6月23日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

お日さまに ご勘弁モール 涼む閣
緑陰の あこに静かな そよ風を

今日の行事

夏休み前最後の授業日

今後の行事予定

8月18日 夏休み明け最初の授業日

8月31日(土) 元の校舎にもどる日

夏休み中の事務所業務は10時～15時(受付は10時30分～14時30分)までとし、7月23日～8月2日を休業としますのでご了解ください。

**楽しい夏休みを過ごしてください！そして
8月18日に元気で会いましょう！**

着衣で防衛

仮校舎の室温調節ができず、教室によっては寒すぎる状況が続いています。上着を羽織るなどして、風邪などにかからないようにお願いします。

運動会を秋に

運動会の反省が、総務オフィス会議、運動会係会、職員会議それぞれに行われましたので、その要点について報告します。

昨年に引き続き途中で終了したことに生徒から不満の声がありました。

反省では、体調不良(熱中症等)の人や突風によるけが人が出てしまったことが問題になりました。学校は教科指導等を通じて生徒を育てることを目的にしていますが、それは生徒の安全が確保されてこそ達成されるものです。この時期では、夏の初めのひどい暑さに体が慣れていないことや、局地的に発生する雷雨を、回避することができません。このことから、開催時期をもと(秋)に戻すことにしました。

5年前に運動会が秋から春に移ったことには大きな理由がありました。その一番は、秋に行事が集まりすぎて授業がおろそかになることがあげられたと思います。しかし今回、熱中症やけががが発生してしまい、参加者の安全が最優先であるという前提に関わる問題が突き付けられました。

今後、来年度秋開催に向けて行事の内容について具体的に検討していきますので、ご協力を宜しくお願いします。

運動会の種目の詳細については今年の反省を生かして改善していきます。その案としては、時間の短縮と開始時刻を早めるなどが出ています。

子育てシリーズ(5)「思考傾向を育む」

ある小学校1年生の子が授業中に「ため一何するんだよ」「ふざけんなよー」と叫んでいる相手は担任の先生でした。ベテランの先生は、その子が家庭で使っている会話をそのまま教室に持ち込んでいるのだと気づいています。その子も1年生が終わるころには乱暴な言葉遣いがあまり目立たなくなりましたが、その理由として先生の直接の指導もさることながら、教室での文化に染まってきたからだろうと思われまます。

ある家庭でテレビを見ながら食事をしているときに、「あ、変な格好だあ」「あいつはバカだぜ」「みっともねえ」とみんなで番組の内容について評価しています。別の家庭での同じような場面で、「なぜあの場面で言うのだろう」「全体からみてバランスが悪いね」「個性がよく出ているなあ」などと評価しています。家庭Aでは主観的に感覚的に発言されている傾向にあり、家庭Bでは大きく客観的に相対的に理性的に語られているようにみえます。Aに比べてBのほうが、会話が途切れず深まる可能性があります。どちらがよいということではなく、この何気ない日常のことばのやり取りの中に、人間としての総合的な力量を育む機会が隠されていることに思いを巡らせてしまうのです。

教室でも、多くの知識を学びながら、多様な思考方法を学び思考力を鍛えていきます。先生が子どもたちに、社会で働くときに役立つ能力を育てようと思えば、自分もしっかり考えて授業に臨まなければなりません。それ以上に親の日々の言動こそが子どもたちの思考の傾向を左右していることは、先生からの影響の比ではありません。

思考傾向として望ましいと思われるものの一つとして「集中力」をあげてみます。一つのことに集中すると周りのことが全く気にならなくなるのは一般的に認められることですが、思考を深めそれを持続させるという作業は習慣によって強固になります。人間の脳はニューロン(神経細胞)がシナプス(その接合部)をつないでその上を電氣的に情報が伝わっていき、よく使う回路は強固になり、たとえあるニューロンが切れても周りの回路がそれをカバーして働くようになると言われていています。明らかに脳の回路の強弱は後天的な思考習慣によって左右されていることが研究によって裏付けられているのです。

家庭の文化が高度に耕されていれば、子どもたちの思考傾向も望ましい状態に至ると言えないでしょうか。